

# 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4070800885		
法人名	医療法人 福満会		
事業所名	グループホーム 八重桜		
所在地	福岡県福岡市東区西戸崎5丁目8番54号		
自己評価作成日	平成22年11月28日	評価結果確定日	平成23年1月25日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do">http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 評価事業部		
所在地	福岡県北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成22年12月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームの建築デザイン自体に趣があり、静かで落ち着いたゆとりのある住環境で、居室も日当たりがよく明るい。庭も広く緑に囲まれており、季節感を感じられるとともに、散歩をしたり、天気の良い日に食事をしたりと入居者と家族、スタッフの交流の場となっている。毎月作っている、利用者と家族向けの便りやカレンダー。家族への報告・連絡・相談をこまめに行っている。食事が美味しい など

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

古民家を再現したという住空間は、高い天井に渡る大きな梁、土壁や全面床暖房となる栗の木の床材、暖炉の設置等により、懐かしくもあり、また、落ち着いた雰囲気にも包まれている。伝統家具や調度品、ピアノも配置され、ゆとりある空間作りの妙は特徴的である。「共生」～共に生きる～と掲げられた理念を支援の基とし、様々な取り組みにおいてその共有が図られていることが確認できる。入居者の思いに寄り添い、共感できるように作成された「ライフヒストリー表」や「センター方式」によるアセスメント情報を共有し、また日々の職員の気づき等を丁寧に積み重ねながら、本人本位の支援を追及している。また、その取り組みは計画作成にも充分に活かされ、役割や趣味活動、日課、地域行事への参加等が具体的に示され、その人らしい暮らしを支えている。法人として社会貢献活動にも積極的に取り組んでおり、無料健康相談会の実施や、ボランティアとしての演芸公演を全国各地で行っている。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)		

自己評価および外部評価結果					
自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「共生」～共に生きる～という理念を掲げている。「地域密着型サービス」の「地域」という文言はないものの「地域」を含めた「共生」～共に生きる～という内容である。法人内の研修時に、理事長の理念に関する講話を聞くことで理念の共有に努めている。また、年間目標を掲げることで、実践に繋げている。	理念とする、「共生」～共に生きる～のもとに、4項目の方針が示されており、入居者、家族と共に、また地域や職員も含めた「共生」という思いが込められている。法人理事長により、全職員を対象とする講話も行われており、理念を深く掘り下げながら、浸透、共有を図り、実践につなげるよう取り組んでいる。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	同敷地内の介護老人保健施設の利用者や職員との日常的な近所づきあいがある。また日頃の買物も地域の商店を利用したり、地域の美容室にヘアカットへ出かけたり、地域行事へ参加したりと馴染みの関係が出来ており、交流をはかっている。	隣接する「みつみ老人保健施設」との日常的な交流があり、行事やカルチャー教室(絵画・フラワーアレンジメント等)にも参加している。地域行事や祭りへの参加、また地域との交流を目的とする秋祭りは、多くの地域住民や団体の参加、協力を得て、盛況に開催されている。ボランティアの受け入れ、また法人として自らも演芸ボランティア「みつみ座」を結成し、全国各地や海外での公演も実現している。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ボランティアの受け入れ等することで、ホームで行っている認知症ケアの実際を体験していただいている。今後、地域の方に向けての認知症ケアに対する理解や支援を行っていく		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	写真を用い、ホームでの日常生活の様子や家族との交流風景を伝えている。また、スプリンクラー設置後にホームへ招き、今後、地域方々の協力のもと避難訓練に取り組めるよう意見等頂いている。	運営推進会議には、自治会長や自治会協議会相談役、民生委員、地域包括支援センター職員等の出席を得ており、時には入居者が参加する機会もある。家族の参加が難しい状況にあり、今後の働きかけを課題として捉えている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議への参加を呼びかけたり、集団指導や市の研修に参加することで、協力関係を築くようにしている。	認知症サポーター養成講座開催に向けた取り組みの中で、行政との協働を図っている。行政等、公的機関の主催する外部研修への参加を行っている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修や勉強会を通し、スタッフへの周知を行っている。玄関については、外部からの侵入を防ぎホーム内からの出入りは自由にできる状況である。入居者が外に出られた時は、入居者の意思を尊重し付き添うように心がけている。	内外の研修参加、実施により、職員の理解や意識を深めている。また、隣接する「みつみ介護老人保健施設」との合同にて、毎月、身体拘束廃止委員会が開催されている。玄関は防犯上オートロックとなっており、室内からは自由に開閉できる。	

福岡県 グループホーム 八重桜

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会や研修へ参加することで、学ぶ機会を設けている。参加できないスタッフに関しては、資料を回覧する等して対応している。		
8	(6)	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加することで、学ぶ機会を得ている。現段階で入居者に対し支援するまでに至っていない。	これまでに権利擁護に関する制度活用の事例はないが、成年後見制度や日常生活自立支援事業に関する知識を深めるよう継続的に取り組みながら、資料の整備や入居時には家族への説明を行う等、必要となった場合には活用に向けた支援が行えるよう体制の整備に努めている。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	その時の状況に応じて、説明していくことで、家族に理解、納得していただけるよう努めている。		
10	(7)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々のコミュニケーションを大切にし、その中から要望や意見を聞くことで、運営に反映できるよう努力している。	年2回、入居者、家族、職員の参加による食事が行われており、外食やバーベキュー、忘年会等を企画し、家族との親交を深めるとともに、意見や要望が言いやすい関係作りの機会ともなっている。また請求時にはアンケート用紙を同封する等の取り組みも定期に実施し、積極的に意見の収集に努めている。	
11	(8)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフから意見や提案が出た時は、会議を通して代表者に伝える機会を持っている。また定期的な個人面談や、職員相談シートを活用しスタッフの声に耳を傾けるようにしている。	年2回の個人面談を行い、希望や目標等の把握に努めながら、サポートや調整を行っている。また運営者へ直接つながる「職員相談シート」も備えられている。ミーティング等において出された意見やアイデアは、職員間や法人としての検討が行われ、支援の場面や業務に反映やフィードバックを行っている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者への手紙や面談の機会が得られる。また、職員の研修の機会も得られている。		
13	(9)	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	入居者から介護のニーズをお伺いし、スタッフの性別に関しては考慮している。また就業後も施設内、施設外の研修等に参加する機会がある。	職員の採用にあたっては、ヘルパー2級以上という条件はあるが、年齢や性別による排除は行っていない。「心」のある人を重視しており、また、入居者の意向やニーズを踏まえた性別のバランス等を考慮している。外部研修参加費用のサポートや年2回の個人面談の実施等により、働きやすい職場環境づくりへの取り組みが行われている。	

福岡県 グループホーム 八重桜

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(10)	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	施設内、施設外の研修への参加や、ミーティングを行う事で、スタッフに対する教育を行っている。	権利擁護や法令遵守等の外部研修への参加、また、法人として毎月行われている身体拘束廃止委員会等での取り組みを通じて、人権尊重への共有認識を図っている。	
15		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スタッフの段階や、個々の状況に応じて研修に参加している。		
16		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修に参加した際に同業者と交流する機会が得られている。また近隣の事業所ともドライブや地域行事への参加先で、入居者同士の交流する機会もある。		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に管理者・介護支援専門員・居室担当者が自宅訪問にてアセスメントを行い、ご本人の希望や抱えている不安等に耳を傾け、入居後のケアプランに活かしている。また、入居してすぐは環境の変化等で不安も大きいと思われるため、細やかなコミュニケーションを図る。		
18		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の自宅訪問にて、家族へのアセスメントも行っている。その中から、希望や抱えている不安をケアプランに反映している。		
19		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	スタッフや介護支援専門員とのケアカンファやミーティングを通して、本人や家族の思いや希望に沿うように努めている。		
20		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として、入居者から教えていただくことも多く、同じ時間や空間を共にすることでお互いの関係づくりに努めている。全てにおいてお手伝いするのではなく、入居者の出きることを引き出すよう支援している。		
21		本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や受診後、状態に変化があった時には、そのつど状況を伝えている。また、入居者と家族の時間を大切にするためにも食事会を企画したり、協力していただけることは声かけしている。		

福岡県 グループホーム 八重桜

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居時は慣れ親しんだ家具を搬入、配置している。知人の来居や、地域への外出、地域行事への参加等の支援行っている。また、趣味や好きなことをケアに取り組んでいる。	センター方式を活用したアセスメントやライフヒストリー表を活用し、これまでの暮らしを把握することで、関係性の継続に向けた支援を行っている。里帰りツアーの計画や趣味活動・日課の継続、地域行事への参加等を支援している。	
23		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	コミュニケーションが困難な入居者の場合はスタッフが仲介に入っている。また、毎日の食事やおやつ、入居者の誕生日会、レクリエーション、外出を通して入居者同士の関わりを大切にしている。		
24		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された入居者のところへ訪問(入院中の病院や入所している施設への訪問)したりと、入居者同士やスタッフ共々関係が続くようにしている。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	3ヶ月に1度ケアカンファレンスを実施。アセスメントの中に、ご本人の声や希望・不安・訴えを取り込み、ケアプランに活かしている。	家族の協力を得ながら作成されたライフヒストリー表や、センター方式等を活用したアセスメント情報を職員間で共有し、一人ひとりの思いに共感できるよう取り組んでいる。3ヶ月毎のモニタリング時に、日々の細やかな視点による気づき等をもとに、アセスメント情報を更新しており、その人らしいプラン作成へとつなげている。	
26		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にライフヒストリー表の記入を依頼している。また、居室の家具や配置も入居者の慣れ親しんだ環境に近づくように支援している。自宅訪問でのアセスメントや以前利用していたサービス事業所からの情報をケアに活かすよう努めている。		
27		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	経過記録や申し送りノートへの記入によって情報の共有に努めている。また、スタッフ同士、日々のコミュニケーションを大切にしており、入居者の変化等に気づくよう努めている。		
28	(13)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入退院時や、心身の状態に変化が見られたときスタッフでカンファレンスを行い、状況に合わせてケアプランを作成し、対応している。	本人、家族の意向を踏まえ、個々の力が発揮できる役割りや趣味活動、日課等が具体的に示され、また、地域行事への参加等についても盛り込まれている。わかりやすい表現で記載されており、共有が図りやすく、達成状況の確認にも有効である。	

福岡県 グループホーム 八重桜

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の経過記録をこまめに行っている。些細なことでも気づいた事があると、申し送りや、スタッフ同士のコミュニケーションによって情報の共有に努めている。また定期的なモニタリングを行い、ケアプランの見直しを行っている。		
30		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々ご本人の状況の変化に合わせて、柔軟な対応ができるように多職種の意見を取り入れるように心がけている。また季節感の味わえる行事への参加や外出の計画をケアプランに反映させている。		
31		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事に参加することで、地域の方々との交流に努めている。また入居者の里帰りツアーを計画していく予定である。		
32	(14)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族が希望される病院への受診を支援している。受診結果について家族へ連絡し、必要時には受診の付き添いの声かけをしている。	本人、家族の意向によるかかりつけ医への受診を支援している。母体となる医療機関や隣接する「みつみ老人保健施設」との充実した連携体制は、日々の健康管理や医療活用に活かされており、本人、家族の安心につながっている。	
33		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	容態の変化があった時は、そのつど協力病院の看護師や隣接する施設の医師や看護師に指示を仰ぐ等連携を図り、入居者の緊急時に備えている。		
34		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中であっても、病院へ訪問し医療関係者との情報の共有に努めている。		
35	(15)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	病気の進行等の変化によって、ご本人やご家族の気持ちも経過共に変化するので、そのつど重度化や終末期についての話し合いをしている。また、かかりつけ医の協力を得ている。	重度化や終末期への対応については、状態の変化に応じて、その都度、医師も交えた話し合いを重ねながら、方針を共有している。母体となる医療機関や、隣接する老人保健施設との充実した連携により、本人、家族の安心となるよう支援している。	
36		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	状況に合わせたマニュアルがあり、スタッフへの周知に努めている。また今後取り組むべき課題の一つであり、緊急時の訓練を計画して行く。		

福岡県 グループホーム 八重桜

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、災害時の避難訓練を実施している。またマニュアルを作成し、スタッフへの周知に努めている。訓練の実施内容を運営推進会議にて、地域の方にも報告し協力を得られるような体制を築くよう努めている。	年2回、隣接する「みつみ老人保健施設」との合同訓練が実施されている。今年度はグループホームの夜間を想定した訓練が行われ、協力体制の確認や課題の検討が行われている。地域の防災訓練に参加し、地域住民との連携を図っている。	
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の納得がいくまで話を聞いたり、その方の性格や状況に合わせて対応するよう心がけている。		
39		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ホームで生活していく中で1日の流れ等決まっておらず、入居者それぞれのペースにてのんびりと生活していただいている。入浴や外出の希望があれば、そのつど対応し希望に沿えるよう努めている。		
40		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者のペースを大切に、その日その日をどう過ごしていただくかご本人の希望が叶うよう支援している。		
41		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の着たいものを着た頂いている。入浴やヘアースタイルに関しても入居者の希望に沿えるよう支援している。またビューティーケアへの参加や、外出して買い物の支援を行っている。		
42	(18)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食卓が3つあり、気の合う入居者やご夫婦で食事ができる環境にある。入居者の誕生日には、好きなメニューにするなど工夫している。食器拭きや台拭きの後片付けの手伝いの声かけしている。	柔らかく仕切られた共用空間を活用し、思い思いの場所で食事を楽しんでいる。訪問時は御夫婦の食卓に同席させていただき、和やかな食事風景があった。朝・昼は隣接施設からの提供となり、夕食をホームで調理している。月2回刺身の日を設けたり、こだわりの焼酎やワインを嗜む方もいる。	
43		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者の摂取量に合わせた、盛り付けを行っている。苦手なメニューの時は、別メニューに変えたりと対応している。また主治医の指示にて管理栄養士による栄養管理や水分摂取の管理、食事の形態や口腔状態に合わせて提供するなど、ケアプランに反映している。		

福岡県 グループホーム 八重桜

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入居者一人ひとりに合わせて、口腔ケアの声かけや見守り行っている。また必要に応じて、ケアプランの重点項目に掲げるなどして対応している。		
45	(19)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者に合わせ、定期的にトイレ誘導を行う事でトイレでの排泄を促している。	個別の排泄状況やパターンを把握し、一人ひとりにあわせた声かけ、トイレ誘導を行っている。自尊心や羞恥心への配慮に留意し、さりげない対応に努めている。	
46		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘しないよう、こまめな水分補給や腹部マッサージ、緩下剤を使用した予防に努めている。また、排便に関しては全スタッフが情報を共有できるよう、確認しやすい経過ファイルにチェック項目を作っている。		
47	(20)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	自発的な入浴が困難な入居者には、3日に1度のペースで入浴を促し清潔保持に努めている。またその日の状態によって対応しており、希望時はすぐに入浴できるよう支援している。	特に入浴日の設定は行わず、希望や状況に柔軟に対応しており、毎日の入浴や夜間の時間帯での入浴にも対応している。三方からの介助が行える二つの浴槽が設置され、ゆっくりとした時間を過ごせるよう個別対応が行われている。	
48		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、傾眠傾向の入居者は、リクライニングチェアを使用していただいている。また夜間覚醒している入居者には、お茶や饅頭などの軽食を提供し、入居者に合わせた睡眠ができるよう支援している。		
49		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全入居者の内服している薬がすぐに見れるよう、ファイルしている。またセットミスや服薬ミスがないように複数のスタッフが関わるようダブルチェックしている。		
50		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	買い物やドライブ、散歩などの希望があった時は、少しの時間でも気分転換して頂くため対応している。洗濯物たたみや食器拭きなど、入居者に合った役割が持てるよう支援している。		
51	(21)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	普段の会話から、入居者の行きたいところなどの希望を聞くことで、可能な限り対応している。また隣接している老健の行事や地域行事への参加、ドライブに出かけたりと、その日その日に出来る事を一緒に行っている。	季節の移ろいを肌で感じられるように、また心身の活性化につながるよう、希望や状況にあわせた外出や、外出の機会作りを支援している。庭での花壇作りや外気浴、時には料理を持ち出し昼食を楽しんだり、また隣接する老人保健施設の行事参加や喫茶利用、絵画やアレンジフラワー教室等への参加を行っている。	



福岡県 グループホーム 八重桜

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理の困難な入居者に関しては、スタッフが管理しているが、個人で財布を管理している入居者もいる。買い物に行った時など、ほしいものが購入できるよう、見守りや一部介助にて支援している。		
53		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所有している入居者もいる。希望に応じて、家族や知人と電話したり、手紙や年賀状を出したりと支援している。		
54	(22)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物自体に趣があり、共用スペースには季節の花や入居者の作品、毎月作成しているカレンダーを掲示している。スタッフの足音や建物内の光を調整したり、夕方は勝手口へのれんをかけるなど入居者の混乱に繋がらないように配慮している。	古民家を再現した居住空間は、高い天井に重なる太い梁や土壁、重厚な一枚板のテーブル、各所に在る伝統家具や調度品等により、趣のある落ち着いた雰囲気にも包まれている。栗の木を用いた床面は全面床暖房となっており、快適かつ安全な暖房効果が得られている。入居者の特技が発揮されたカレンダーが毎月作成され、掲示されている。	
55		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	思い思いに過ごせるよう、各所に椅子を置いている。共用スペースでは入居者が自由に過ごす事ができる。食事のテーブルも3ヵ所あり、入居者同士気の合う方々と食事が出来るようになっている。		
56	(23)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時、自宅訪問を行い本人のなじみの空間に少しでも近づけるよう情報収集している。また、家族に対し本人の使いやすいものや、使い慣れたものを持ってきていただけるよう相談している。	間取りや設備(洗面台・トイレ・キッチン等)、入り口の引き戸のデザイン等が各居室で異なり、また馴染みの家具や大切な品々が持ち込まれた個性ある居室作りとなっている。個々のライフスタイルが尊重された居室空間は、生活感が十分に感じられ、日課や趣味活動に勤む姿もあった。開口部は大きく設けられており、明るく、障子が設置されている。	
57		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の扉のデザインや間取り、壁紙が各々異なることで、自分の部屋を認識できるように配慮している。また、入居者より希望があれば表札を掲げている。ホーム全体がバリアフリーである。		